

平成25年度

教育に関する事務の管理及び執行の
状況の点検及び評価報告書

田川市教育委員会

目 次

第 1	はじめに	1
第 2	点検・評価の考え方について	2
第 3	自己点検・評価について	
1	教育委員会の主な活動実績	3
2	教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務について	
(1)	学校教育課	7
	教育研究所	14
(2)	教育総務課	21
(3)	生涯学習課	24
(4)	文化課	30
第 4	資 料	
	教育委員会会議議案一覧（資料 1）	37
	教育委員会会議報告等一覧（資料 2）	39
	教育委員研修会等参加状況（資料 3）	41
	教育委員学校訪問日程（資料 4）	42
	教育委員会委員名簿（資料 5）	44

第1 はじめに

1 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書について

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第27条に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うこととなりました。そして、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

そこで、本市教育委員会では、地域の教育課題や教育ニーズに応じた基本的な教育の方針・計画を策定し、これらに基づいて実施した政策について、その必要性、効率性等の観点から自ら点検・評価を行っています。この点検・評価制度は、多様に変化する社会情勢や教育改革の動向を見据え、政策立案を的確に行うことに直結していきます。また、その結果を公表することは、市民に対する説明責任を果たすことで、市民の信頼を高め、開かれた教育行政を推進していくうえで非常に重要なことです。

この報告書は、平成25年度の教育委員会活動を、本市教育委員会が年度毎に作成している「田川市教育施策方針」に掲げた具体的な施策内容等と照らして、教育委員会自らがその進捗状況等について、点検・評価を実施し作成したものです。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 教育委員会制度の概要について

(1) 教育委員会制度の仕組み

教育委員会は、首長から独立した行政委員会と位置付けられ、地域の学校教育、社会教育、文化、スポーツ等に関する事務を担当する教育委員による合議制の執行機関として、すべての都道府県及び市町村等に設置されており、教育行政における重要事項や基本方針を決定しています。教育委員会を組織する教育委員は、首長が議会の同意を得て任命します。

また、教育長は、教育委員のうちから教育委員会が任命し、教育委員会で決定し

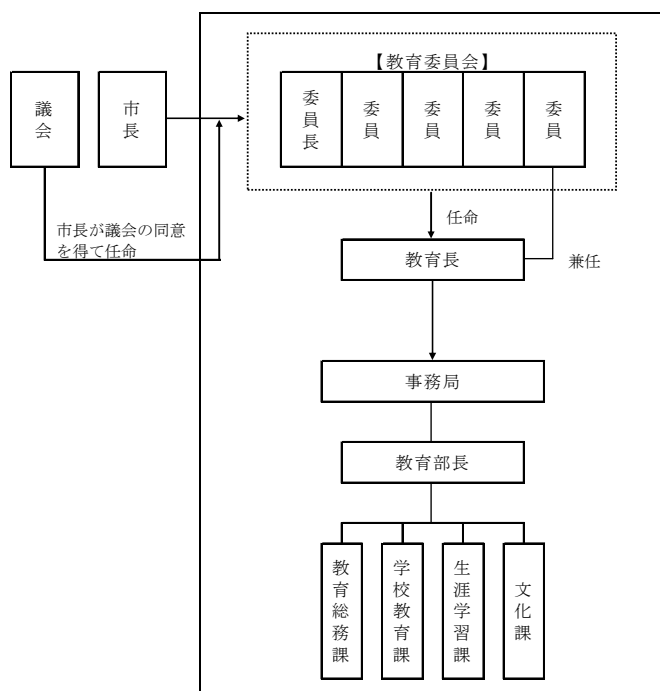
た重要事項等に基づき、教育委員会の事務を執行します。

(2) 教育委員会制度の意義

教育委員会制度の意義としては、教育における政治的中立性の確保や継続性・安定性の確保、地域住民の意向の反映などが挙げられます。

教育委員会は、地方における教育行政の中心的な担い手として、その役割を果たすことが求められています。

－田川市教育委員会の組織－



第2 点検・評価の考え方について

1 点検・評価の方法

点検・評価に当たっては、施策・事業等の内容と実績を明らかにするとともに、成果と課題等を示しています。

2 点検・評価結果の構成

(1) 点検・評価の対象

ア 教育委員会の活動状況

イ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務（自己点検・評価シート）

「平成25年度教育施策方針」に掲げる主要課題を点検・評価の対象としています。

(2) 点検・評価の対象期間

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで（平成25年度）としていきます。

(3) 点検・評価における内容及び成果

各項目の目標達成に向けて取り組んだ内容、成果、課題等を示しています。

(4) 評価

自己点検・評価シートについては、教育施策方針に掲げた主要課題に対する実施及び進捗状況等を踏まえ、AからDの4段階評価を行っています。

【評価判断基準】

A…著しい成果が得られた

B…概ね良好な成果が得られた

C…あまり成果が得られなかった

D…成果が得られず、課題を残した

3 担当課

自己点検・評価シートについては事業を実施した担当課が点検・評価を行いました。

4 学識経験者の知見の活用について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第2項に規定する「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用」を図ることから、今回の評価を行うに当たっては、次の方に依頼し、評価いただきました。

田川市PTA連合会会長・穂山弘美氏、田川市活性化協議会会長連絡会座長・兒島孝司氏、田川市青少年育成連絡協議会会長・山倉政憲氏、田川市体育協会会長・永岡勉氏、田川地区人権センター事務局長・光武均氏、田川市図書館協議会会長兼田川市石炭・歴史博物館等運営協議会会長・是澤清一氏、田川市美術館協議会会長・片岡覺氏

第3 自己点検・評価について

1 教育委員会の主な活動実績

(1) 教育委員会会議の実施

田川市教育委員会会議規則第3条の規定に基づき、定例会は毎月1回、臨時会は必要に応じて開催し、教育行政に関する事項を審議しました。

ア 開催実績 定例会：12回 臨時会：5回 合計：17回

イ 議決の状況【教育委員会会議議案一覧：資料1】

議案の内容	件数
基本方針等の策定、事務の管理・執行状況の点検評価	2
教職員の人事関係	2
教育委員会規則等の制定・改廃	4
予算、条例等議会議決事項	11
審議会委員等の任免・委嘱	9
その他	9
合計	37

ウ 報告事項等【教育委員会会議報告等一覧：資料2】

報告：3件 事務報告：20件 合計：23件

エ 平成24年度傍聴者状況

開催月	種類	傍聴者数	開催月	種類	傍聴者数	開催月	種類	傍聴者数
4月	定例	0名	10月	臨時	0名	1月	臨時	0名
5月	定例	0名	10月	定例	0名	2月	定例	0名
6月	定例	0名	10月	臨時	0名	3月	臨時	0名
7月	定例	0名	11月	定例	0名	3月	定例	0名
8月	定例	0名	12月	定例	0名	3月	臨時	1名
9月	定例	0名	1月	定例	0名	合計	17回	1名

オ 広報活動状況

定例教育委員会会議開催日時については、田川市民会館玄関前へ掲示し、また広報たがわ及びホームページへも掲載することにより周知を図っています。

また、教育委員会のしくみや教育委員会委員の紹介、事務局各課の事業内容等もホームページへ掲載しています。

(2) 教育委員会と市長部局との連携

新園（後藤寺幼稚園及び伊田幼稚園の統合幼稚園）及び猪位金校区小中一貫校の開校等について、進捗状況等の報告を兼ね、市長と教育委員とで意見交換会を行い

ました。

- (3) 教育委員の自己研鑽、他自治体との連携、情報交換等研修会等への参加等

【教育委員による研修会等参加状況：資料3】

福岡市で開催された福岡県市町村教育委員会女性教育委員研修会や、飯塚市で開催された福岡県市町村教育委員会連絡協議会教育長研修会及び鹿児島市で開催された九州地区市町村教育委員研修大会に参加し、他自治体との連携、情報交換や情報共有を行い、資質向上に努めました。

- (4) 学校訪問【教育委員学校訪問日程：資料4】

年次計画に基づく定例的なものとして、5月に小学校3校と中学校2校及び後藤寺幼稚園と伊田幼稚園を訪問し、園児、児童生徒の状況や授業参観を行いました。

6月、9月には小学校2校と中学校1校の授業充実学校訪問に参加しました。

また、教育委員の校区担当制を取り入れ、委員が担当の学校を訪問することによって、「①学校と教育委員との結びつきを深める。」「②教育委員としての資質向上に努める。」「③各学校の取組を交流しながら教育委員の学習会を実施する。」以上3つを目指すことにしました。その他、入学式、卒業式、体育祭、文化祭等の学校行事に出席し、式典でのあいさつ、校内の視察、学校関係者との懇談等を行いました。

- (5) 教育施設訪問

成人式、公民館まつり、コールマイン・フェスティバル（炭坑節まつり）等所管施設で行われる行事に出席し、式典でのあいさつ、イベントへの参加、施設内の視察及び関係者との懇談等を行いました。

2 活動の評価

- (1) 教育委員会会議内容について

教育委員会会議日前に事前配付された資料等について、会議前に案件への理解を深め、会議には教育部長、課長、教育研究所長等が出席し、議案、事務報告など、案件の説明を行い、慎重に審議を行いました。

また、審議の中で、委員間及び事務局との活発な意見交換を行い、よりよい田川市の教育行政の実践に向け、改善点や要望を示しました。

- (2) 教育委員会会議等の情報公開について

開催日等の情報については、事前に各媒体によりお知らせし、市民に開かれた教育委員会を目指しました。会議は田川市教育委員会会議傍聴人規則に基づき、傍聴

することができるとともに、会議の議題・審議結果及び会議録については、ホームページで公開しています。

また、教育委員会の活動についても、ホームページにおいて公開しています。

今後もさらに開かれた教育委員会を目指します。

(3) 自己研鑽及び情報交換等について

教育委員を対象にした研修会や協議会等に積極的に参加し、自己研鑽に努めました。また、研修会や協議会等に出席している他市町村教育委員会の教育委員をはじめとする関係者と交流を行い、教育行政について情報交換を行いました。

(4) 施設等の訪問について

学校、教育施設等で開催される各種行事へ積極的に出席し、教育現場の実情把握に努めました。また、その中で教員等関係者との懇談や情報交換を行い、積極的に情報収集を行いました。

○ 重点施策

第Ⅲ期学力向上プロジェクトの推進を図り、教師の指導力の向上を図る

主要課題		第Ⅲ期学力向上プロジェクトの推進を図り、教師の指導力の向上を図る
課題対策の具体化		学力向上プロジェクトの報告会の実施、及び課題の把握
実績	成果	<p>◆学力向上プロジェクト報告会を10月に鎮西校区、11月に中央校区の2校区で実施し、それぞれの校区の学力向上プロジェクトの取組状況や成果を明らかにすることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考力を高める授業方法の究明（交流活動を中心に） ・データに基づく校区の実態に応じた授業づくり ・小・中連携した授業づくり ・地域の教育力を生かした協働の教育活動
	課題	◆実証された方法を日常の授業へつなげるため、方法をシンプルにまとめ（一般化）、教室で実践されているか検証する必要がある。
課題対策の具体化		学力向上プロジェクトの充実と、実効ある学力向上
実績	成果	<p>◆小学校では、問題把握、個による解決、集団による解決、ふりかえりの学習過程が定着し、結果として全国学力学習調査の県比が過去最小（国語A-1.2, 国語B-2.3, 算数A-1.3, 算数B-3.2）となった。中学校においても各校代表者で構成された学力向上プロジェクト合同会議を設置し、現状や課題に基づいた実効ある学力向上の取組を充実させることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数構成による学力向上プロジェクト推進委員会の組織づくり ・各学校の学力向上プロジェクト担当者と人権・同和教育担当者による学力向上プロジェクト推進委員会の設置
	課題	◆小学校で過去最高であるといっても教科区分平均で県比-2程度の差がある。「書くことの充実で思考を深める」活動を一層充実させる必要がある。中学校では積極的な生徒指導の視点を取り入れた授業づくりの再検討が必要である。
課題対策の具体化		教師の指導力向上へ向けて、研修会の実施とその充実
実績	成果	<p>◆経年研、校内研、市費講師研、教科等研、若年教員研等ステージや専門教科に応じた教職員研修が実施できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経年研、校内授業研を中心に言語活動を重視した授業実践が広がった。 ・教科等研で全部会授業研究が実施（会員の多い教科では複数回）できた。 ・2月に管理職・教務・研修担当者を対象とした学力向上研修会を実施し、課題と次年度の方策が共有できた。
	課題	◆児童生徒の学習意欲の向上及び一単位時間の内容の確実な定着のため指導と評価の一体化を一層進める必要がある。
課題対策の具体化		市費雇用教職員を活用した少人数学級、及び少人数指導によるきめ細かな指導実施と検証

実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆市費負担教員の配置により、小学校1年から中学校3年において（小学校1年は国庫）35人以下の少人数学級編成や少人数指導を行うことができ、個に応じた指導の充実を図ることができた。 ・標準学力検査（CRT）において小中平均2.6ポイントの伸びが見られた。 ・ユニット制などを含む少人数分割による指導体制が充実した。 ・複数の関わりにより支援体制が充実した。 ・6、7月に開催した市費講師研において「人権教育の推進」「授業づくりのコツ」等について研修し実践化できた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆市費負担講師研修会で「問題解決的学習」「発問」「板書」「机間指導」等教師の授業行為を計画的に研修させるプログラム化が必要である。 ◆習熟度別学習の実施について学校差がみられるので、校長会で効果を上げている方法例を伝え、実態に応じて多様な学習指導形態を実施する必要がある。
総合評価		<p>【A 著しい成果が得られた】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「きめ細かな実態把握に基づく手だて」や「書く活動の充実」により、全国学力学習状況調査において小学校は過去最高の結果、中学校においても伸びが見られた。 ◆市費負担教員の配置増により、個に応じた指導体制が充実した。

○ 重点施策

確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成に取り組む

主要課題	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成に取り組む	
課題対策の具体化	確かな学力の育成	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆休日学習推進事業（土曜数学まなび塾）の教科を英語・数学の2教科に拡大したことで82名の通塾生が学習することができた。 ◆学習の定着の観点から言語活動の充実を図った授業改善が増えてきた。 ◆各学校で家庭学習の手引きを作成し、家庭と連携した学習習慣定着の取組が進み、平日、学校以外で全く勉強しない児童生徒の割合の前年度比が、小学校では7.1%から2.2%に、中学校では20.5%から14.3%に減少し、改善が見られた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆休日学習推進事業（土曜数学まなび塾）通塾生の成績が、平成24年度ほど向上していない。集中につながる学習規律や個に応じた教材等の観点から指導の見直しを図る必要がある。 ◆形としての言語活動を意識するあまり必然性のない班活動を取り入れる場面が見られ、体験的・問題解決的な学習の進め方を研修する必要がある。
課題対策の具体化	豊かな心の育成と人権を大切にする教育の推進	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆いじめ防止基本方針を全校で作成し、いじめ防止対策を総合的かつ効果的に取り組む体制づくりが進んだ。 ◆身近な地域から自らの生き方を考える「田川みらい学習」の試行に向けて「田川みらい学習ノート」を作成することができた。 ◆8月に「田川市教職員の人権・同和問題に関する意識調査」を実施し、95.8%の回答率を得た。内容でも学校の人権・同和教育で人権問題を減らしたりなくしたりできるという自覚を持った教員が95.0%存在し、意識の高さが分かった。 ◆弓削田中校区では、人権教育地域推進事業の研究指定2年次を迎え、地域と連動した人権教育の指導プランに基づく実践が進んだ。

		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力を生かした人権・同和教育の推進 ・小・中9か年を見通したキャリア教育の実施
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆小中学校合わせて8件の差別発言が発生した。これまでの人権教育が児童生徒の実感を伴ったものであったのかを再点検し、人権の視点に立った教育活動を一層推進する必要がある。 ◆平成27年4月の「田川みらい学習」の全校実施に向け、「田川みらい学習ノート」の内容を検討する必要がある。 ◆教職員の大量退職時代を目前にし、若年教員の人権感覚や認識を高めるための研修の充実に努めなければならない。
課題対策の具体化		健やかな体の育成
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆給食食器を入れ替え、食事環境の充実を図ることで望ましい食習慣の形成につながった。 ◆スポコン広場の登録が小学校9校全校（100%）ででき、児童が意欲的に活動できた。 ◆よりよい食習慣づくりを目指して、大浦小学校において「お弁当の日」を実施することができた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆目標やモデル像をもって体力を高める活動の充実が必要である。 ◆小学校においては、すべての教師が計画的な体力向上を実践できるよう、体力向上プランに重点的取組「1校1取組」を明記し実践するとともに体育科学習を運動量の確保の観点から改善していく必要がある。
総合評価		<p>【B 概ね良好な成果が得られた】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学力向上プロジェクトで重視した地域や保護者と連携した取組を実施することができた。 ◆豊かな心や人権感覚を育てるため、具体的な体験をとおして実感を伴った理解が得られる取組を強化する必要がある。 ◆目標を持ち、運動課題を解決する体育科学習を実施する必要がある。

○ 重点施策

地域との連携を図り、特色ある教育活動に取り組む

主要課題		地域との連携を図り、特色ある教育活動に取り組む
課題対策の具体化		各校区の教育課題の克服を目指し、教育機関と地域との連携の深化
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆12月に県立大学において、幼稚園・保育園（所）・小学校・中学校の教員等による市内合同研修会を実施して、子どもの見方、係わり方の共有を進めた。 ・はじめからこれをしなさいとさせるのではなく、子どもがそうしたいと導く手立てを工夫すること ・就学前実態調査の実施と課題解決の手立ての確認
	課題	◆校区で保護者を含め例外なく実施できる具体的支援策の検討・実施が必要である。
課題対策の具体化		幼稚園・保育所（園）・小学校の連携による、子どもたちの基本的な生活習慣の確立と小一プロブレムの解消

実績	成果	<p>◆小一プロブレムの解消のため以下の取組を実施し、幼児期からの基本的な生活習慣や体験、保護者のことばかけが大切なことを広めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前実態調査の実施（3月、4月） ・小1 査定学習会の実施（4月 小学校 26人） ・子育て講演会（8月 就学前 50人 小学校 40人 保護者 4人 一般 6人） ・就学前学習会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ① 9月（就学前 16人 小学校 24人 中学校 2人 保護者 1人 行政 2人） ② 12月（就学前 9人 小学校 24人 中学校 5人 保護者 1人 行政 3人）
	課題	◆保幼小中の連絡は全ての校区で実施しているが、お互いの行事への参加等相互交流については校区により差がある。
課題対策の具体化		小学校・中学校の連携による、学習指導の連続性や接続性の円滑化と、中一ギャップの解消
実績	成果	<p>◆小中連絡会、小中授業公開、小中交流授業など小学校と中学校の連携が確実に実施できた。結果として児童生徒質問紙で「学校の規則を守っていますか」に否定的な回答をした生徒が前年度より減少した。（H24 15.4%, H25 12.5%）</p> <p>◆小中連携により指導方法の交流が進み、児童生徒質問紙で「算数（小学校）、数学（中学校）の授業がよくわかる」と回答をした児童生徒が前年度より増加した。（小学校 H24 75.0%, H25 80.2%）（中学校 H24 59.2%, H25 67.0%）</p>
	課題	<p>◆小中連絡会、小中授業公開、小中交流授業など小学校と中学校の連携は確実に進んでいる。しかし、一部の問題を抱えた児童生徒への対応で保護者・地域の信頼を得られない事態となることがあった。</p> <p>◆中1ギャップの指標の一つである不登校について増加傾向にあり、対応が必要である。（小学校 H24 7人, H25 12人）（中学校 H24 19人, H25 25人）</p>
課題対策の具体化		幼稚園・保育所（園）・小学校・中学校と県立大学との連携の深化
実績	成果	<p>◆幼稚園・保育所（園）・小学校・中学校がそれぞれで県立大学が有する知的・人的な財産を活用して、各校の課題克服に向けた取組を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田川市立幼稚園開園に向けた3歳児カリキュラムの作成 ・学生ボランティアによる現場体験 ・薬物乱用防止教育の実施 ・中学校区活動への県立大学としての参加
	課題	◆県立大学との連携は確実に進んでいるが、大学からの距離等地理的条件によつての格差が埋められなかった。次年度は、放課後児童クラブにおける学習支援も開始する予定であり、県立大学との連携を一層進める必要がある。
総合評価		<p>【B 概ね良好な成果が得られた】</p> <p>◆地域に根ざした連携の充実は、田川市の強みであり、特色であることから、毎年力強く取り組まれてきている。今後とも、各機関と連携し地域に根ざした学校づくりを進めていきたい。</p> <p>◆不登校が増加傾向にあるので、家庭、地域と連携した取組を、一層充実させる必要がある。</p>

○ 重点施策

目指す田川市の教育実現のため、学校再編に取り組む

主要課題	目指す田川市の教育実現のため、学校再編に取り組む	
課題対策の具体化	猪位金小中一貫校開校に向けて施設及び教育課程の整備	
実績	成果	<p>◆猪位金校区小中一貫校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・猪位金校区学校統合委員会を7回開催し、平成26年4月の開校に向けて教育課程、通学路、施設等地元の意見を聞いた学校づくりができた。 ・平成26年3月に「第3回校区説明会」を開催した。
	課題	<p>◆開校時の考え方を継承すること。</p> <p>◆跡地利用の検討を遅滞無く開始すること。</p>
総合評価	<p>【A 著しい成果が得られた】</p> <p>◆開校に向け準備が整った。平成18年の審議会答申から時間を要したが、学校適正規模推進について具体的に事業を前進させることができた。</p>	

○ 継続課題

主要課題	特別支援教育の充実	
課題対策の具体化	特別支援教育の充実を目指した諸条件の整備や教職員研修の深化	
実績	成果	<p>◆特別支援教育支援員を小中計14名配置し、支援の必要な児童生徒の実態に応じたきめ細やかな支援を行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任や関係者との協同的な支援 ・個別の教育支援計画、個別の指導計画に基づく児童生徒への支援 ・それぞれの特性に応じた対応や学びの支援
	課題	<p>◆特別支援教育支援員の各学校からの設置要望は多いが、全ての要望に応えることができておらず、支援員制度の拡充が必要である。また、支援員対象に障害のある児童生徒との基本的なかわり方の研修会の開催が必要である。</p>
課題対策の具体化	個に応じた適切な個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成による特別支援学級の経営	
実績	成果	<p>◆特別支援学級に在籍する児童生徒をはじめ通常の学級に在籍する児童生徒で、特別な支援が必要な場合については、個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成し、個々の障害に応じた適切な指導の充実に努めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級担当者を対象とした指導と評価に関する研修の場の設定 ・特別支援学級担当者研修会での情報交換と改善策の検討
	課題	<p>◆教科のねらいに基づかない生活単元学習を構成する等、特別支援学級の教育課程に対する理解が不十分な点があるので、特別支援学級担当者研修会で指導する必要がある。</p>
総合評価	<p>【B 概ね良好な成果が得られた】</p> <p>◆特別支援教育コーディネーター制度も徐々に定着してきており、各学校の特別支援教育の研修や個に対する指導の充実が見られるようになってきている。</p>	

主要課題	社会の変化に対応した教育の推進	
課題対策の 具体化	教育の情報化の推進	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆中学校PC教室用パソコンを新型に入れ替え（35台×7校）、快適な動作環境で操作ができるようになった。 ◆教員用パソコン・プロジェクター・実物投影機等を活用したり、ネットワークを活用したりして授業を行うことで、児童生徒の視覚、聴覚を刺激する教材提示ができた。
	課題	◆今後予想される移動可能型PC（タブレット）等への対応を含め、各学校においては、情報教育に堪能な教員を複数名育成する必要がある。
課題対策の 具体化	国際理解教育の推進及び外国語教育の充実	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆「Hi! Friends」の活用や目的を明確にした活動により児童生徒の外国語活動及び外国語科における知識・理解、コミュニケーション能力の育成を図ることができた。 ◆外国語指導助手（ALT）の活用により、実践的コミュニケーション能力の育成や外国の文化の理解を進めることができた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆田川市雇用のALTが1人であるため、市内17校に十分な時間を派遣することができない。 ◆留学生や外国籍住民等が地域に少ないため、外国語の積極的活用と国際理解教育を推進していくことが難しい。
総合評価	<p>【B 概ね良好な成果が得られた】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆小学校では、Hi! Friendsの活用が、中学校ではコミュニケーションの基礎を培う活動への理解が進んだ。外国語指導助手（ALT）については、筑豊教育事務所ALTの派遣を要請することで、派遣回数確保ができた。 	

主要課題	田川市放課後児童健全育成事業の実施	
課題対策の 具体化	放課後児童の健康管理、安全確保、情緒の安定	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆信頼できる大人（放課後児童クラブ指導員）がいて、子どもが進んで放課後児童クラブに通い続けられるような環境の整備（遊びの環境、集団づくり、冷暖房設備等）により子どもが安心して過ごせている。 ◆子ども一人ひとりの生活状況を把握しながら、子どもの情緒や子ども同士の関係にも配慮し、子どもの気持ちを尊重して支援することができている。
	課題	◆子どもが生活するスペースがクラブによって差があるので、学校の空き教室の利用を検討する必要がある。
課題対策の 具体化	遊びの活動への意欲と態度の育成	
実績	成果	◆室内においても遊ぶことができる道具を確保するとともに、屋外遊びを豊かにするため、学校と連携して校庭・体育館を利用することができている。

	課題	◆遊びに積極的に参加する児童、しない児童がいることから、指導員側の遊びに関して創意工夫やグルーピングの工夫が必要である。
課題対策の具体化		遊びをとおしての自主性、社会性、創造性の育成
実績	成果	◆子どもが年齢に応じた遊びや友達関係を組み立てることができるように、遊びの環境や道具・素材、空間や時間などを工夫し、子どもが遊ぶ意欲を持って、自分で遊びを作りだし、遊びの幅を広げ、その内容を工夫・創造していけるように働きかけた。 ◆子どもは「遊び」をとおして自主性や創造性を養うとともに、仲間との関係や遊びの場におけるルールなどについて学ぶ。そこで、指導員は、子どもの自主性を尊重しながら、仲間づくりを援助することや子どもの社会性を養い、年齢に応じて自治的な活動ができるように支援した。
	課題	◆リーダー養成等、異学年の集団構成のための適切な指導 ◆児童間におけるお互いの思いやりや気配りなどの人権意識の育成
課題対策の具体化		放課後児童の遊びの活動状況の把握と家庭との連携
実績	成果	◆お迎えの時間を利用して子どもの日々の状況について保護者に伝え、また保護者からも家庭の状況について伝えてもらうなどの日常的な情報交換を実施した。また、児童クラブの活動中に児童の間でトラブルが発生した場合は、必ず保護者に報告し、必要があれば、小学校へも報告した。 トラブルを起こした児童へは、気持ちを引き出した上で善悪を判断できるよう指導を行った。児童全員にとって必要なことであれば、みんなで考える機会を作り話合った。
	課題	◆信頼関係の構築には、些細なことであっても、日ごろから小まめな「ほうれんそう」を心がけ、保護者に安心してもらうことが大切である。また、普段から他愛ない会話を大切にすることで、「話しやすい」雰囲気を作っておくことも大切である。 ◆家庭の教育力低下による児童の問題行動の発生
課題対策の具体化		放課後児童の学習習慣の定着を目指した学習支援
実績	成果	◆放課後児童クラブの学年制限を平成27年4月に撤廃することに伴い、先に学年制限を撤廃したクラブから順次学習支援を実施する計画を策定し、指導者を退職校長会に依頼し4名の協力者を得た。
	課題	◆学習支援を実施するにあたっては、落ち着いた環境が必要であるため、学校に依頼して図書室等を活用する必要がある。支援場所を変えることに伴い、児童の移動等安全確保を図ることが必要である。
総合評価		【B 概ね良好な成果が得られた】 ◆子どもが放課後児童クラブの場を自分たちの遊び・生活の場として実感でき、生活時間の区切りや活動の予測などに見通しを持って過ごせている。 今後、放課後児童クラブについては、子ども・子育て支援法に基づき各市区町村が策定する「市町村子ども・子育て支援事業計画」に従い、計画的に基盤整備を図ることが必要である。

○ 重点施策

教職員の資質向上を目指した研修会等の充実を図る

主要課題	教職員の資質向上を目指した研修会等の充実を図る	
課題対策の 具体化	委嘱研究員を募り実践研究の深化を図るとともに、研究サークルの育成を推進し研修活動への助言と援助に努める 筑豊地区教育研究所連絡協議会の主催する教育実践研究研修会の充実を図り、研修員の資質向上に寄与する	
実績	成果	◆平成25年度は教育実践研究員（筑豊教育事務所）2名、田川市委嘱研究員8名、合計10名の教師が研修会に参加し、内8名が「ふくおか教育論文」としてまとめることができた。また、平成25年度は田川市から「ふくおか教育論文」に応募した16名の中から1名が優良賞を受賞することができた。 ◆市及び筑豊教育事務所指導主事による、具体的な指導を受けることで、仮説に基づいた教育実践を行うことができ指導力や専門的力量が高まった。
	課題	◆数年前から大量の熟年教師の退職とそれに従い大量の若年教師の採用が増加し、教育現場では、若年教師の指導力の向上が喫緊の課題となっている。研究所でも対応策として、平成24年度から、教職2年目の教師を市委嘱研究員として位置づけ、若手教師の指導力の向上を目指している。
課題対策の 具体化	教職員の研修意欲を高めるため、教育実践研究の募集及び所感集の発刊を行う 教育実践研究応募者や長期研修員の研究成果を教育委員会が実施する教育研究発表会をとおして公表する	
実績	成果	◆長期研修は、福岡県教育センターが1名、社会教育主事講習者が1名、計2名であった。研修を経験した教師は、田川市教育研究発表会や研究所報などとおして研修の成果を公表し、研修の意義を再確認する場とすることができた。 また、他の教師にとっても、教育研究発表会での実践発表を聞くことにより、日常教育活動への活用や、研修意欲の高揚に役立てることができた。
	課題	◆昨年度も長期研修者は福岡県教育センター1名、社会体験研修1名であった。ミドルリーダーを計画的に育成していくためには、附属小学校や福岡県教育センター等の長期研修に計画的に派遣できるよう、小中学校現場と連携した体制づくりが必要である。
課題対策の 具体化	教職員の研修意欲の向上と実践をとおした教育課題の克服に寄与するため、田川市教科等研究会の運営に参画する	
実績	成果	◆年間3回の教科等研究会を実施できた。第1回目に年間計画を立て2学期に小中の20すべての部会が、自主的な運営により授業研究を実施し、3学期に成果と課題をまとめて研究の足跡を冊子にして事績として残すことができた。 特に、20部会すべてが市や県の委嘱を受けた発表会と兼ねることなく授業研究や事後の研修会を実施し、教科の専門性を高めることができた。
	課題	◆部会員は原則として教師の主体性を重視した希望制のため、ここ数年部会における会員数の格差が出ている。会員数が20名以上の部会は2つのグループに分かれて活動することができた。しかし、特別活動、生活・総合、家庭科については参加者が少ないため、教職員数の多い学校については、1名参加する等の工夫が望まれる。
課題対策の 具体化	教育課題の認識と問題解決意識の育成や指導技術の向上を図るため、教育講演会や実技講習会を開催する	

実績	成果	<p>◆実技講習会（体育・図工・理科・コンピュータ）は、昨年同様の教科で実施されたが、中身は年々新しく工夫された教材教具で、楽しい実技講習が行われていた。</p> <p>◆教育講演会は2回実施することができた。10月に福岡教育大学教授小泉先生を招聘し、『子どもの社会性を高める取り組み』と題して、管理職・主幹教諭・研究主任を対象とした講演会を実施した。2月には福岡教育大学教授清水紀宏先生を招聘し『算数・数学科における問題解決的な学習の指導法』と題して、市内小中の全教職員を対象とした講演会を実施した。子どもの社会性を育むための具体的な取組や算数科を切り口にした授業改善の視点の入った講演であった。今後の生徒指導や授業の指導に生かせるとの意見が多数聞かれ、教師にも大変好評であった。</p>
	課題	<p>◆実技講習会と「教育講演会」は、どちらも教師の感想やアンケートからは、「楽しかった」「わかりやすく明日からの学級活動で生かせる」「日々の授業を見直す機会となった」等の内容が多かった。一方、2月の教育講演会については学校の行事や高校の入学試験準備と重なるため時期を検討してほしいとの中学校からの意見もあった。次年度は開催時期を早める等の検討をしたい。</p>
課題対策の具体化		<p>研究員1名を指導主事兼任とし、学校教職員への指導助言をより効果的に行う</p>
実績	成果	<p>◆教育の内容と方法に精通した研究員を指導主事兼任とすることで、学校研究や個人研究に対する専門的な指導助言が行えた。また、指導主事とすることで、福岡県指導主事研修会（年間3回）に参加することができ、教育の動向や県の方針などを学び、各学校に伝えることもできた。</p> <p>◆初任者の道徳の指導8名、市委嘱研究の指導8名、合計16名の指導案審議や授業研究に参加し、若年教師の道徳や教科指導の指導技術の向上に寄与することができた。</p>
	課題	<p>◆初任者8名の道徳の指導並びに市委嘱研究員8名の先生方の指導を1年間行ったため、指導案審議や授業研究の日程調整等では工夫が必要であった。</p>
総合評価		<p>【A 著しい成果が得られた】</p> <p>◆市委嘱研・教育実践研に若手の教師が積極的に参加し、1年間の研修をとおして指導技術も高まってきつつある。</p> <p>◆教育講演会・教育研究発表会等の開催時には、多くの先生が参加し、アンケート結果からも研修への意欲の高まりを感じることができた。</p> <p>◆市教科等研究会では、平成25年度から研究主題を「学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む授業づくり」に変更し、20部会すべてが授業研究を実施するとともに、1年間の研究のまとめをすることができた。</p> <p>◆市委嘱研究員8名が1年間の研究のまとめとして教育論文を作成し、田川市の教育論文に応募することができた。</p>

主要課題	<p>調査研究の充実を図り、教育課題解決のための手立てとしての資料提供に努める</p>
課題対策の具体化	<p>研究所運営に関するアンケート調査等をとおした要望や、教育現場の教育活動推進に関する要望を踏まえた調査研究を実施する</p> <p>学校教育及び生涯学習の充実を期する調査研究や、教育行政施策推進上の教育課題克服に関する調査研究を行う</p>

実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆年度当初のアンケート実施により、毎月2回発行している研究所通信「虹」の講読状況や教育講演会や研修会についての要望を知ることができ、実施する際、教師のニーズに応じた講演会や研修会を実施することができた。 ◆児童生徒の実態調査では「子どもと望ましい人間関係」について、小学4年・6年、中学2年の児童生徒、その保護者、その担任教師についてアンケートを実施した。この調査をとおして児童生徒の学校における友人や教師との関係、家庭における家族との関係、地域社会における人間関係について概ね実態を把握することができた。保護者については、家庭での子どもと家族の関係について概ね把握することができた。また、教師についても子ども達の学校や家庭・地域での人間関係をどのように捉えているかを概ね把握することができた。 ◆調査の結果を学校や保護者に知らせ、学力向上に向けて、学校での教育活動に生かせるようにした。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆児童生徒のアンケートから、子ども同士の交友関係や教師との関係も良好の子ども達が多いことが推察される。また、家庭内の親子関係についても挨拶や言葉使い、食事のマナー等の基本的な生活習慣については、躰として実施している家庭が多いことがわかった。しかし、休みの日の地域活動への参加については他の活動に比べると低くなっている。家庭と地域の人々とのコミュニケーションを密にしていける必要がある。
総合評価	<p>【B 概ね良好な成果が得られた】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆研究所運営のアンケート結果については、研究所通信「虹」で概要を各学校に報告するとともに、校長会をとおして全アンケート結果を速やか各学校で回覧していただくようにし、教育活動の課題解決の資料としてより効果的に活用してもらうことができた。 ◆児童生徒の実態調査の結果については、学校と関係機関には冊子で報告しているが、保護者には市の広報誌による一部掲載での公表となっている。教育課題解決の資料としてより効果的に活用するには、公表の仕方を工夫していく必要がある。 	

主要課題	学校・学級不適応や生徒指導上の諸課題への対応の充実を図る	
課題対策の具体化	適応指導教室の運営と不登校問題への対応を充実する	
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆通室児童生徒数は小学生2名、中学生11名、合計13名と例年に比べ多かったが、2名の指導員で学習指導や様々な体験活動を実施することができた。 ◆在籍学校の校長や担任と連携を取りながら、教科学習や体験活動を実施し、学校復帰を目指し、適応指導教室を運営することができた。特に、年度当初に校長会・教頭会、補導主事主任研修会等で、新しく作成した適応指導教室紹介のパンフレットを配布し、各学校から不登校傾向児童生徒・保護者に見学を呼びかけて頂き、運営の活性化を図った。 ◆不登校傾向の兆しが見え始めた児童生徒・保護者に対し、学校や研究所から積極的に入室を働きかけることにより、多くの生徒が適応指導教室に途中入室した。その内、小学生1名、中学生4名が2学期後半から3学期に在籍校に復帰できたことは、大きな成果といえる。 ◆中学3年生は5名在籍していたが、指導員から高校受験に向けての指導を受けていた生徒が、今年3月に希望する高校に3名合格し、2名は希望する通信制の高校に入学することができた。

	課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆在籍生徒の内、家庭の事情や保護者の体調に左右されて欠席する生徒がいるため、在籍校職員、保護課、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携して通室を働きかけていったが、今後も状況に応じて教育相談を実施していきたい。 ◆適応児童生徒が13名と増加したため、1室のみの教室では活動しにくい面があったため、今後検討していく必要がある。
課題対策の具体化		関係学校、県立大学、福岡教育大学等との連携を深め、教育相談の充実を図る
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆元小学校長で、日本学校教育相談学会認定学校カウンセラーの資格を持った方による教育相談を原則毎週木曜日午後には実施した。昨年度の相談内容は、不登校傾向、学習不適應等が主であった。教育相談員が保護者や本人との意思疎通を図ることで、少しずつ本人の状況を改善することができた。 ◆小・中学校の教育現場からの相談件数は減少傾向であるが、不登校傾向になり始めの児童生徒については、速やかに教育相談を行うことで、県立大の不登校サポートセンターやサウンドスクールに通室できている子ども達もいる。
	課題	◆小学校児童の教育相談では、家庭内の雰囲気子どもに与える影響が大きいことを保護者に気づいてもらうため、保護者のみの相談も児童の教育相談と併用して実施していきたい。
課題対策の具体化		生徒指導上の諸課題を整理し、教育現場に提供することとおして、学校における生徒指導の充実を図る
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆昨年は対教師暴力0（-3）、児童生徒間暴力12、対人暴力0（-3）、器物損壊2、いじめ4（-5）、不登校33（+7）であった。 特に対教師暴力や対人暴力は0件、いじめの件数も減少していたことから、各学校の児童生徒の生活状況は落ち着いてききつつある。 ◆生徒指導上の諸問題については、各学校から情報を集め、補導主事主任会、定例校長会で協議していくことで、早期解決に向けての取り組みを推進することができ成果が上がっている。
	課題	◆毎月各学校から提出される月例報告では、生徒指導上の諸問題が発生した際は学校で報告書を作成し、研究所で集約するようになっているが、記載が不十分なため再提出が多かった。年度当初から校長会や補導主事主任研修会で記載内容について説明を徹底させる必要がある。
総合評価		<p>【B 概ね良好な成果が得られた】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆関係機関、筑豊教育事務所管内の各学校からの生徒指導上の問題行動や不登校・不審者・声かけ事案等を集約し、全学校にその実態を資料提供するとともに、問題行動への対処について共通理解を図り、取組を推進することができている。 ◆各学校と教育委員会・生涯学習課をとおして校区活性化協議会等に一部関係情報を提供して取り組んでいる。

主要課題	資料センターとしての機能を充実する
課題対策の具体化	既存教育図書及びビデオ教材等の整理、新規資料の充実を図るとともに、関係機関等の研究紀要（CD）も含め、その活用化を図る

実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆年2回図書やDVDについて市内全教職員から新規購入希望アンケートをとり、学校現場のニーズに応じた図書やDVDを購入し充実を図るとともに、研究所通信「虹」で購入した新刊図書等を各学校に随時紹介した。また、年度末には研究所が保有している蔵書やDVDの一覧表を作成し、各学校に配布して積極的な活用を図ることができた。 ◆各学校や関係機関からの研究論文を収集し（平成22年度からCD化）、必要な時に貸出できるようにしている。
	課題	◆旧教育庁舎図書室にまだ多くの図書資料が保管されている。資料センターとしての効果的な活用を図るには、市民会館内にある資料保管場所を拡充していただきたい。
課題対策の具体化		<p>事業や研究の事績を取りまとめ、実績報告書を発行するとともに、随時、広報誌（紙）を発行する</p> <p>ホームページを作成し、広報活動を行う</p>
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆研究所の調査研究（実態調査）や委嘱研究、各種研究活動、夏休み自由研究展、教育相談、適応指導教室、生徒指導等の1年間の取組のまとめを実践報告書として発行し、学校現場での活用に資することができた。 ◆研究所通信「虹」を月2回（年間24号）作成し、随時各学校に送付するとともに、研究所ホームページに掲載し、学校現場だけでなく関係機関へも広報活動を行うことができた。 ◆発行した研究所報（年2回）、実績報告書、調査研究、研究紀要（第48集CD化）等を筑豊教育事務所や福岡県教育研究所連盟（27各研究所）に配布し、積極的な広報活動を行うことができた。
	課題	◆1年間の児童生徒の問題行動の集約をする際、3月の月例報告が中旬提出となっているため、例年実績報告書のまとめや印刷・製本等の作業が3月末に集中している。提出期限を早める等の検討をしていく必要がある。
総合評価		<p>【B 概ね良好な成果が得られた】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「虹」の購読について、毎年市内全教職員を対象にアンケートを実施しているが、購読率は昨年同様数90%と高かった。また、研修会や講演会に1回以上参加した教師の割合は、平成24年度が約68%、平成25年度が約70%となり、僅かながら増加していることから、研修意欲が高まっていることが分かった。

主要課題	学校と連携して、児童・生徒の学習意欲を喚起する自由研究活動を実施する
課題対策の具体化	学校との連携
実績	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆7月の校長会で『夏休み自由研究展』への応募を呼びかけ、夏季休業中に児童生徒が自主的に調査・研究した作品の募集を依頼した。自由研究展に応募した児童生徒数は、小学生236名、中学生41名、合計277名であった。自然や社会事象における自主的な調査や研究活動をとおして自主的な学習に取り組むことができた。特に中学生の応募者数が増加していたことは喜ばしいことである。 ◆9月21日（土）・22日（日）の2日間、田川文化センター1階展示室で実施することができた。2日間で児童生徒は189名、保護者・一般の方は152名、合計341名の方が来場し、児童生徒の自由研究作品を見て頂くことができた。特に児童生徒の来場者が昨年比増加していた。

	課題	◆児童生徒の応募状況を見ると、例年に比べると中学生の応募者は増加したものの大きな差がある。今後も応募が増えるように呼びかけていきたい。 来場した教師のアンケートから、自由研究展を学級の児童に見せたいので、平日も1日入れてほしいとの依頼があった。次年度は自由研究展の開催日を金・土・日の3日間に検討していきたい。
	総合評価	【A 著しい成果が得られた】 ◆「夏休み自由研究展」を開催することにより、作品を応募した児童生徒をはじめ、見学に来た児童からも次年度への参加希望が聞かれ、児童生徒の自主的な学習を促すよい機会となっている。 子どもの声から…「たくさんの方が長時間の観察等をしていてすごいと思いました。友達の自由研究もありました。実験結果も詳しく書いていてすごいと思います。来年もできたら研究をやってみようと思いました。」 大人の声から…「毎年自由研究展に来ていますが、それぞれ色々な角度から自由研究をしているようでとても参考になります。我が子も、来年はどのようなことを題材にするか等、構想が膨らんでいるようです。」

	主要課題	公的機関紙等をとおして、地域や家庭の教育力を高める啓発活動を行う
	課題対策の具体化	公的機関紙等の活用
実績	成果	◆児童生徒の実態調査の結果を「広報たがわ」に掲載し、教育への関心を高めるための資料提供に努めることができた。 ◆教育研究所の教育活動を広く知らせるために、毎月2回発行している「虹」を学校や教育関係機関に配布するだけでなく、市役所各課の部長や課長にもメールで送信している。また、研究所ホームページに掲載している「虹」や研修会・発表会、授業支援コーナーを設定し、地域への広報活動にも努めている。
	課題	◆教育研究所のホームページの掲載内容を定期的に点検して、早目の更新を心がけていきたい。
	総合評価	【B 概ね良好な成果が得られた】 ◆教育研究所では「教育活動に役立ち活用していただくこと」を研究所運営のモットーに努力している。「児童生徒の実態調査」の集約結果を市の「広報たがわ」に掲載したり、毎月2回発行している「虹」をホームページに掲載したりすることにより、子どもの学校や家庭での様子や教育活動について保護者や地域の方に広く知らせることができた。 ◆市役所の各課に送信している「虹」への購読率は、既読者が増加しているため、教育研究所の各種事業の取組の様子を知っていただいていることが分かった。

	主要課題	福岡県教育研究所連盟等関係機関・団体と連携して、諸事業の充実に寄与するとともに、本市教育の充実に資する
	課題対策の具体化	福岡県教育研究所連盟等関係機関・団体との連携

実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆福岡県教育センターや筑豊教育事務所や田川市教育委員会や筑豊地区教育研究所連盟と連携し、研究論文の作成や授業研究等について日常的に交流を図ることにより、教育研究所運営の活性化及び学校教育の充実に役立つよう取組を推進することができた。 ◆筑豊地区の研究発表会だけでなく、福岡県教育研究所連盟の研究発表会でも市内の教諭が実践発表をすることができた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆数年前から熟年教師の大量退職と若年教師の大量採用が行われている。田川市でも若年の教師が増加してきた。早急に授業の指導力や学級経営力を身につけていくためにも、福岡県教育研究所連盟等関係機関と連携し、研修を実施していく必要がある。
総合評価	<p>【B 概ね良好な成果が得られた】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆筑豊教育事務所で開催される授業研究やエキスパート養成講座に若手教師が2名ずつ参加し、1年間の研修をとおして指導力を高めることができた。 ◆筑豊地区教育研究所連絡協議会主催の研究発表会での実践発表及び福岡県教育研究所連盟の実践発表について、アンケートなどから好評であった。 	

平成25年度 教育総務課 自己点検・評価シート

○ 重点施策

地域との連携を図り、特色ある教育活動に取り組む

主要課題	地域との連携を図り、特色ある教育活動に取り組む	
課題対策の具体化	地域で子どもを育てるという観点から教育機関と地域との連携を深める	
実績	成果	◆犯罪の抑止対策として、平日の昼間、不審者情報等を警備会社及び学校教職員へ提供し、各小学校周辺の巡回警備を実施した。また、幼稚園や小・中学校の学校施設には、夜間の機械警備を導入し、教育現場の安全確保に努めた。
	課題	◆警備を行う対象施設が多い。既存の警備方法を、より十全なものに改善していくため、警備会社及び学校教職員等と協議しながら、引き続き児童生徒の安全確保を図っていく必要がある。
課題対策の具体化	幼稚園、保育所（園）、小学校との連携による、子どもたちの基本的な生活習慣の確立と小一プロブレムの解消に努める	
実績	成果	◆平成26年4月に開園することができた。
	課題	◆幼稚園教育の充実を図っていくため、幼稚園教諭と協議しながら、施設の更なる有効的な活用方法を、研究し実践していく必要がある。
総合評価	<p>【B 概ね良好な成果が得られた】</p> <p>◆今後も、巡回警備等は引き続き実施し、生涯学習課事業の青色パトカーによる防犯パトロールや、地域の自主防犯活動等と連携を図り、児童生徒の安全確保のための取組を実施したい。</p> <p>◆後藤寺幼稚園及び伊田幼稚園の統合を行い、新たな幼稚園園舎を整備し、予定の平成26年4月の開園を実現することができた。</p>	

○ 重点施策

目指す田川市の教育実現のため、学校再編に取り組む

主要課題	目指す田川市の教育実現のため、学校再編に取り組む	
課題対策の具体化	猪位金小中一貫校開校へ向けて施設及び教育内容の整備をする	
実績	成果	◆平成26年4月に開校することができた。
	課題	◆小中一貫校における学校教育の充実を図っていくため、学校教職員と協議しながら、施設の更なる有効的な活用方法を、研究し実践していく必要がある。
総合評価	<p>【A 著しい成果が得られた】</p> <p>◆小中一貫校を施設一体型にて開校するにあたり、中学校施設を改造、増築工事を行い、予定の平成26年4月の開校を実現することができた。</p>	

○ 継続課題

主要課題		学校施設の有効活用
課題対策の具体化		学校施設の有効活用
実績	成果	<p>◆校区活性化協議会との連携による地域コミュニティの形成を図るため、世代間交流事業をはじめとする地域の各種行事において、学校施設は活用された。</p> <p>また、スポーツ及びレクリエーション活動を行う団体（学校開放事業）にも、各学校の体育施設の活用を図った。</p> <p>◆児童生徒の減少に伴い生じた余裕教室は、各学校の特色、状況、ニーズにあわせて、それぞれの機能を持たせ活用した。</p>
	課題	<p>◆生涯学習課や学校と連携を図り、施設の貸出状況や、空き状況等の把握を行い、情報の共有化を図るとともに、現在では屋内運動場の使用が主となっているため、校舎の貸出も同様に貸出対象施設であることを周知し、より有効に学校施設の活用を図っていききたい。</p> <p>また、学校施設の貸出に関する統一した事務の遂行ができるよう要綱等の作成を行っていききたい。</p>
総合評価		<p>【B 概ね良好な成果が得られた】</p> <p>◆学校施設は、学校運営に支障を来さない範囲で、地域の方々などに活用されている。また、余裕教室については、少人数学習を実施するための教室等、各学校の特色、状況、ニーズに応じた活用を行っている。</p>

主要課題		学校の適切な維持管理
課題対策の具体化		学校施設の改修
実績	成果	<p>◆幼稚園や小・中学校の教職員からの改修依頼を受け、必要に応じ、施設の整備を実施した。</p> <p>平成25年度は、後藤寺小学校の体育館内部壁補修、大浦小学校のフェンス補修、田川小学校の立ち入り保護柵補修、鎮西小学校の校舎パラペット壁及び屋外水路改善補修、伊田小学校の教室及び給食調理室屋上防水補修などを行った。</p>
	課題	<p>◆学校施設は、古いものが多く、老朽化が進んでいることから、今後も補修等が増加することが予想される。また、近年の自然災害による施設への被害が生じる可能性も予想される。引き続き、施設の安全性・機能性の確保を図るため、点検等を実施し、学校再編計画をみながら、必要に応じた改修を行っていく。</p>
課題対策の具体化		特別支援教育対象者への対策
実績	成果	<p>◆障害を持った児童生徒が入学等する場合は、幼稚園や小・中学校の教職員から必要となる施設の改善依頼に応じ、改修等の対策を行った。</p> <p>平成25年度は、大藪小学校の特別教室内の畳替え及び保健室内へのシャワー設備の設置、鎮西中学校の特別支援教室内の給湯器改修、後藤寺中学校の特別支援教室内の照明器具増設を行った。</p>

課題	◆引き続き障害を持った児童生徒にとって、過ごしやすい環境を整備するため、幼稚園や小・中学校の教職員からの改善依頼に応じ、適切に対応していく必要がある。
総合評価	【B 概ね良好な成果が得られた】 ◆学校施設の老朽化に伴う改修や、学校現場からの修繕・改善依頼には、概ね対応することができた。児童生徒のためにも、今後とも必要に応じ、安全かつ快適な環境づくりに努めたい。

主要課題	防災対策のための施設整備	
課題対策の具体化	後藤寺小学校屋内運動場天井地下等補強工事の実施	
実績	成果	◆屋内運動場は、児童生徒等の安全確保はもとより、地域コミュニティの中心として、また防災拠点の役割や災害時の避難所としての機能を持つことから、天井地下等補強工事を実施することにより、児童生徒等の安全確保を図ることができた。
	課題	◆残りの小・中学校においても、屋内運動場の照明器具やバスケットゴール等の落下防止対策のため、取付部分の耐震点検を実施する必要がある。
課題対策の具体化	太陽光発電システムの自立運転と蓄電機能付加工事の実施	
実績	成果	◆伊田小学校及び後藤寺小学校の既設の太陽光発電システムに、自立運転及び蓄電機能を付加し、災害等での停電時においても、電気設備を使用可能な環境整備に努めた。
	課題	◆自立運転機能及び蓄電機能を付加したことにより、施設環境の向上に努めたことで、この案件に関する課題はないものとする。
総合評価	【A 著しい成果が得られた】 ◆学校施設は、防災拠点の役割や災害時の避難所としての機能を持つことから、防災対策のための施設整備を実施したことにより、防災施設として、更なる機能強化を図ることができた。	

主要課題	小学校給食の設備整備	
課題対策の具体化	小学校給食の設備整備	
実績	成果	◆安全・安心でかつ安定した学校給食を運営するため、老朽化した回転釜や炊飯器等給食器具の更新を行った。
	課題	◆平成25年度において、全小学校の回転釜や炊飯器等給食器具の更新を実施したことにより、この案件に関する課題はないものとする。
総合評価	【A 著しい成果が得られた】 ◆全小学校において、老朽化した回転釜や炊飯器等給食器具の更新作業が完了したことにより、より一層の安全・安心でかつ安定した学校給食を児童へ提供することができるようになった。	

- 重点施策
いつでも、どこでも学べる生涯学習環境をつくる

主要課題		校区活性化協議会を基盤とした自主的な充実した地域活動の推進に努める
課題対策の具体化		組織の基本体制の維持（公民館部会、青少年育成部会及び福祉部会の3部会での構成）
実績	成果	◆校区活性化協議会は、事務局をはじめ3部会が中心となり、さまざまな事業を展開している。平成25年度は各校区とも地域の特性を生かして、5大事業のほか、その他事業を平均して10回行っている。その事業に対し、校区担当8名で評価を行った結果、地域に浸透し参加者も増加している状況である。また、活性化事務局で、補助金が適正に処理されているかなどの事務調査を行い、改善点を報告した。
	課題	◆事業自体のマンネリ化はあるが、十数回と継続しているということは、地域住民にとって事業への期待や意欲の表れではないかと考える。今後も校区担当者が5大事業等に参加し、助言を行う。
課題対策の具体化		「男女共同参画プラン」と連動した女性の参画の推進
実績	成果	◆各校区活性化協議会の総会時や事務局長等の会議において、田川市男女共同参画センターから呼びかけを行い、「ゆめっせフェスタ」等に参加している。
	課題	◆各校区活性化協議会へできるだけ早い段階で徹底した周知を行い積極的な参加を呼び掛ける。
課題対策の具体化		地域と学校との協働による特色ある連携事業の推進
実績	成果	◆各校区活性化において校区内の学校と連携し、各種事業を展開することで、地域（保護者等）と学校教職員の積極的な参加が見られる。
	課題	◆地域と学校との協働による事業は定着しているが、より特色ある事業を推進していく。
課題対策の具体化		地域における家庭教育力の向上を目指した事業の推進
実績	成果	◆地区公民館での家庭教育講座の実施 3館90人参加。 ◆市主催による家庭教育講座の開催 「ペアレントトレーニング」「アサーション」をキーワードとした講座を実施（参加者28人）。少人数であったが、講演とワークショップを行ったことで参加者の満足度が高かった。
	課題	◆参加してほしい保護者等の参加が少ないため、広報のあり方、講座の実施方法等の見直しを図る必要がある。
課題対策の具体化		子どもの安全確保・青少年の非行防止を中心とした青少年対策室事業の推進

実績	成果	<p>◆事故防止施策及び街頭啓発活動 事故防止施策については、青色パトカーによる巡回活動を実施（年末年始及び長期休暇期間中を除く平日）。青色パトカー2台の内1台については地域に貸出を行い、週1回校区内を巡回。また、田川警察署少年補導員連絡会主催の県下一斉クリーンアップ作戦（毎月第2・第4金曜日夜）に参加し、街頭補導を実施。これらの取組により、青少年の事故防止や非行防止等に貢献している。街頭啓発活動については、7月の青少年の非行・被害防止全国強調月間、11月の子ども・若者育成支援協調月間に合わせて実施。この活動を通じて、強調月間の趣旨の理解と田川市まちぐるみ子ども安全連絡会議の周知が図られた。</p> <p>◆福岡県青少年健全育成条例に基づく書店、コンビニ、無人販売機などへの立ち入り調査 田川警察署生活安全課少年係と連携して、7月30日に5か所、11月29日に8か所の立ち入り調査を実施。事業所の法令順守を確認できた。</p> <p>◆子ども会育成会連絡協議会・田川市PTA連合会・ボランティアサークル・子育てネットワークなどの活動支援 各団体主催の行事等に対して、人的・財政的支援を実施</p>
	課題	◆活動のマンネリ化、参加者の固定化及び減少化などがみられるため、広報のあり方、手法の見直し等を図る必要がある。
課題対策の具体化		地域内のネットワーク構築と社会福祉活動事業の推進
実績	成果	◆校区活性化協議会の社会福祉部会は、老人会や民生委員等が中心となって組織されており、地域内のネットワーク構築が図りやすい体制となっている。
	課題	◆社会福祉部会が中心となって展開している諸事業については、公民館部会や青少年育成部会に比べ少ない傾向にある。 高齢・単身世帯が多く、見守り等、社会福祉活動事業に対する重要性がますます高まっており、これらに対するネットワーク作りが必要である。
課題対策の具体化		広報活動の活発化と事業の促進
実績	成果	◆広報たがわをはじめ、市HPへの掲載を随時行い、市民に周知している。広報たがわの紙面では、毎月15日号に地域や公民館での行事を掲載しているが、地域からの掲載依頼もあり、十分に市民に浸透している。 ◆活性化協議会が「校区だより」を発行している。
	課題	◆市民の目に留まるような記事の作成を心がける。 ◆「校区だより」を発行していない校区があるため、事務局に助言を行う。
総合評価		<p>【B 概ね良好な成果が得られた】</p> <p>◆校区活性化協議会において、各部会それぞれ特色ある事業を展開し充実した事業を推進していかなければならないなどの課題はあるものの、広報活動により、事業への関心や参加が多くみられた。</p>

主要課題	生涯学習の拠点としての公民館活動の推進に努める	
課題対策の具体化	市民会館（中央公民館）の役割	
実績	成果	<p>◆中央公民館は、市民の一人ひとりがいつでも、どこでも、誰でもが学びあう生涯学習の機会や場を提供し、自立した心豊かな人間形成を支援するよう推進している。</p> <p>◆人材バンク76講座、公民館講座9講座の受講生は932名で昨年より増加している。学びたい意欲のある市民が毎日、市民会館に訪れている。</p>
	課題	◆市民のニーズに応じていけるように、講師、助講師の発掘を行わなくてはならない。
課題対策の具体化	地区公民館の役割	
実績	成果	◆市内94の公民館では体操をはじめ、カラオケや習字などの教室が行われている。地域住民が生きがいを見付けられ、住んで良かったと思える住民同士のつながりが地区公民館を中心として活動できた。
	課題	◆生涯学習の中心的な役割を担っている地区公民館では、公民館を利用した教養講座や学習会が行われているが、今後も多くの住民に利用促進をしていく。
総合評価	<p>【B 概ね良好な成果が得られた】</p> <p>◆中央公民館において、開催されている講座に多くの市民が参加、学習している。また、地区公民館においても地域のニーズに合った事業が行われている。</p>	

○ 重要施策

自分の人権を守り、他者の人権を尊重する地域社会を創造する

主要課題	人権・同和問題に関する教育及び啓発の推進を図る	
課題対策の具体化	人権・同和教育事業及び啓発活動	
実績	成果	<p>◆地域指導者育成の人権（同和教育）研修会実施</p> <p>◆地区公民館等 人権・同和教育講座及び同和问题啓発強調月間（7月）に合わせて中央講座の実施 地域、職場における指導者の研修の場として人権・同和教育中央講座を7月と8月（同日2回）に実施。合わせて260人が参加。</p> <p>◆社会参加促進支援事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車免許取得識字学級の開催（60回、120時間、参加者42人） ・識字学級の開催（16学級、延べ384日、400時間、参加者96人） <p>◆少年期人権啓発推進事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども会地区学習会を6地区13校で実施（小学生192人、中学生77人参加） ・小学生リーダー養成合宿研修（8月、22人）、中学生合同合宿研修（8月、27人）、中学生冬期合同研修会（8月、24人）の実施

	<ul style="list-style-type: none"> ◆社会教育指導員・相談員の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・各1名を配置し、地区学習会、友の会での指導、助言を行った。 ◆人権フェスタの開催及び人権ポスターの展示 <ul style="list-style-type: none"> ・12月8日 青少年文化ホールにて開催（参加者321人） ・人権ポスターの展示 ・公民館まつり 10月13日開催 ・人権週間（市役所玄関口） 12月2日～7日開催 ・人権フェスタ（田川青少年文化ホール） 12月8日開催 ・ポスター応募者 小学生30人 中学生21人
	<p>課題 ◆講座等の参加者の固定化がみられるため、手法の見直し等を図る必要がある。</p>
総合評価	<p>【B 概ね良好な成果が得られた】</p> <p>◆同和問題啓発強調月間にあわせて人権・同和教育中央講座を開催するとともに、広報のあり方を見直した結果、参加者が前年に比べ増加した点が評価できる。</p>

○ 重点施策

社会全体で子どもたちを守り、健やかに育む環境の充実を図る

主要課題	青少年の健全育成と家庭教育力向上への支援に努める
課題対策の具体化	青少年健全育成支援推進事業
実績 成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆青少年育成連絡協議会及び田川市まちぐるみ子ども安全連絡会議の事務局として関係行政機関・団体との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・青少年育成連絡協議会…役員会、理事会各6回開催 ・田川市まちぐるみ子ども安全連絡会議…3回開催 <p>いずれも構成団体等との連携を行い会議の充実を図った。</p> ◆「少年の主張田川市大会」の実施 <p>11月16日、福岡県立大学講堂で実施（発表者8人、参加者210人）。翌年2月1日、田川市郡の代表者9人が集い田川地区大会を開催。この大会を通じて、青少年の健全育成に対する一般の人々の理解と協力が更に深まるきっかけとなった。</p> ◆事故防止施策及び街頭啓発活動 <p>事故防止施策については、青色パトカーによる巡回活動を実施（年末年始及び長期休暇期間中を除く平日）。青色パトカー2台の内1台については地域に貸出を行い、週1回校区内を巡回。また、田川警察署少年補導員連絡会主催の県下一斉クリーンアップ作戦（毎月第2・第4金曜日夜）に参加し、街頭補導を実施。これらの取組により、青少年の事故防止や非行防止等に貢献している。街頭啓発活動については、7月の青少年の非行・被害防止全国強調月間、11月の子ども・若者育成支援協調月間に合わせて実施。この活動を通じて、強調月間の趣旨理解と田川市まちぐるみ子ども安全連絡会議の周知が図られた。</p> ◆福岡県青少年健全育成条例に基づく書店、コンビニ、無人販売機などへの立ち入り調査 <p>田川警察署生活安全課少年係と連携して、7月30日に5か所、11月29日に8か所の立ち入り調査を実施。事業所の法令順守を確認できた。</p> ◆子ども会育成会連絡協議会・田川市PTA連合会・ボランティアサークル・子育てネットワークなどの活動支援

		各団体主催の行事等に対して、人的・財政的支援を実施 ◆地域活動指導員による指導と助言による「通学合宿」と夏休み子ども体験学習事業（たがわトコナツKIDS）の実施 通学合宿については、大浦小校区（参加者14人）、猪位金小校区（同8人）で実施。地元住民との交流や生活・体験活動について成果が得られた。
	課題	◆活動のマンネリ化、講座等の参加者の固定化及び減少化などがみられるため、広報のあり方、手法の見直し等を図る必要がある。
課題対策の具体化		家庭教育力向上への支援
実績	成果	◆乳幼児の保護者を対象とした子育てに関する「0歳期教育」親子教室の実施 発熱時の対応、離乳食の工夫、アレルギー対策等全5回実施（参加者のべ149人）。土曜日開催を中心としたため男性の参加者が増加した。 ◆地区公民館での家庭教育講座の実施 3館90人参加。 ◆市主催による家庭教育講座の開催 「ペアレントトレーニング」「アサーション」をキーワードとした講座を実施（参加者28人）。少人数であったが、講演とワークショップを行ったことで参加者の満足度が高かった。 ◆子育てボランティアグループへの活動支援 田川地区子育てネットワーク「たんたん」への情報提供 ◆田川市学力向上プロジェクト事業との連携 特になし。
	課題	◆参加してほしい保護者等の参加が少ないため、広報のあり方、講座の実施方法等の見直しを図る必要がある。
総合評価		【B 概ね良好な成果が得られた】 ◆家庭教育力向上への支援について新規事業を実施している点で評価できる。青少年健全育成支援推進事業と合わせて、一部事業のマンネリ化、参加者の固定化が見られるが、概ね良好な成果が得られている。広報のあり方や講座の実施方法等について検討を行ってほしい。

○ 重点施策

生涯にわたり楽しめるスポーツ活動の充実を図る

主要課題		生涯スポーツの振興に努める
課題対策の具体化		体育・スポーツの推進
実績	成果	◆子供の体力低下が深刻な状況の中、昨年度は親と子でともに参加可能なスポーツ教室の実施や、小学校体育授業へコーディネーターとしての参加、また、体育協会やスポーツ推進委員、各関係団体の協力により、健康維持や増進を目指した市民スポーツの浸透が深まった。
	課題	◆スポーツ普及・振興を目指すには、スポーツ関係団体との連携協力体制の整備・充実に努める必要がある。

課題対策の 具体化		総合型地域スポーツクラブ事業の推進
実績	成果	◆地域住民のスポーツ活動に関する意識が高まり、スポーツライフも多様化する中、誰もがそれぞれの年齢、体力、技術、興味、目的に応じてスポーツに親しむことができる、「総合型地域スポーツクラブ」を平成12年から随時立ち上げ、現在5団体が存在している。 「いつでも、どこでも、だれもが」をスローガンに自主運営で実施している。 また、市内クラブ代表者による今後のクラブ運営等についての関係者会議を実施した。
	課題	◆個々の団体において、指導者の育成や資金面において苦慮しているため、情報共有のためにも研修会や講習会の必要がある。
課題対策の 具体化		各種スポーツの振興
実績	成果	◆カヌー教室や水泳教室など各種スポーツ体験活動を通じ、スポーツ体験の経験不足な子どもたちにとって、スポーツの魅力や楽しさを体感させることにより、スポーツを身近に感じられる結果となった。
	課題	◆子どもの体力運動能力の向上に努めるため、学校における新体力テスト実施への協力やスポーツへの参加機会の提供が必要である。
課題対策の 具体化		社会教育施設の整備・充実等
実績	成果	◆体育施設については、指定管理者制度を導入し管理している。修繕は、年次計画を立て計画通りに実施し、施設の維持管理に努めている。トレーニングセンターには機器をレンタルし、ニーズに応えるよう内容の充実を図っている。 このため、体育館他・トレーニングセンター・市民プールの利用については年々増傾向にある。
	課題	◆経年に伴う施設の老朽化が目立ち、年次計画に挙がらない修繕が多くなっている。
主要課題		高齢者の健康づくりへの支援に努める
課題対策の 具体化		校区活性化協議会及び保健センターとの連携による地区公民館での高齢者の健康体操教室等の普及
実績	成果	◆地域住民が集まりやすい地域公民館（桜町公民館）を利用することで、多くの参加があり、また保健センターとの連携により血圧測定や体力測定及び栄養講座を実施。
	課題	◆行政主導の健康体操であり、一定期間が終了するとともに自主運営となることから、継続的に健康体操教室を地域の公民館で実施するためには公民館活動や地域住民の費用等の協力が必要である。
総合評価		【B 概ね良好な成果が得られた】 ◆スポーツ推進委員及びスポーツ団体の協力により、日頃スポーツ活動に親しみの無い青少年を対象とした体験的な事業が実施され、スポーツに対する興味を与えられている。 ◆保健センターとの連携により、充実した教室の展開ができ高齢者の健康に対する意識の高揚が図られている。

○ 重点施策
豊かな心を育む芸術文化活動を支援する

主要課題		市民文化活動の充実に努める
課題対策の具体化		市民文化祭、懐かしの名画祭、こども音楽祭の開催 (田川文化センター・田川青少年文化ホール)
実績	成果	<p>◆市民文化祭 市民の芸術文化活動である創作発表会をとおして団体相互の交流を促進するとともに、市民文化の高揚を図るため、市民文化祭を開催した。</p> <p>◆懐かしの名画祭 文化庁より優れた懐かしの名画を誘致し、一般市民に映画鑑賞の機会を提供した。</p> <p>◆こども音楽祭 市内園児、小・中学校の児童生徒、一般市民などによる楽器演奏、吹奏楽、合唱など日頃の練習成果を発表する場を提供し、園児から大人までの相互の音楽交流と発展に努めており、今回で31回目を迎えた。</p>
	課題	◆懐かしの名画祭は参加者が増加した。今後も事業の周知を図るため、より効果的な場所にポスター・チラシを配布し参加者を増やしていきたい。こども音楽祭は、参加団体の増加を図るとともに、観覧者を増加するよう改善していく。
課題対策の具体化		芸術文化体験事業 (田川文化センター・田川青少年ホール)
実績	成果	◆地域の芸術文化活動の向上発展に資するため、関係機関や文化団体等と協力、連携し、本年度は劇団トマト座による劇「小象物語」を上演した。当初、1回公演として計画していたが、応募総数が田川文化センターの大ホールの定員1,200名を大幅に超える人数1,675名となり急遽2回公演とし、参加を希望した学校全てに鑑賞してもらうことができた。プロの劇団による演技を鑑賞することで、生の舞台の迫力など子ども達は大いに楽しんだと思われる。
	課題	◆例年、会場が文化センターとなっており、児童生徒は各学校から徒歩で会場まで移動する必要があるため、文化センターから離れた地域の小・中学校の児童生徒は不参加の状態となっている。バスを手配するために予算措置の検討が必要と思われる。
課題対策の具体化		文化団体の育成 (田川文化センター・田川青少年ホール)
実績	成果	<p>◆文化振興基金 文化団体の育成を図り、文化活動が市民に定着するように支援し、市民の自主的な芸術・文化活動等を奨励するため「田川市文化振興基金」の効率的な運用を図っている。</p> <p>◆田川文化連盟 田川文化連盟は65年以上の歴史を持ち、その活動をとおして資質の向上と地域文化の充実発展に努めている。事務業務を一部補助する形で関係団体を支援し、連携強化を図りながら地域に受け継がれた伝統文化、特色ある地域文化の育成に努めた。</p>

	課題	◆地域に受け継がれた伝統文化、特色ある地域文化をより一層充実させるために田川文化連盟と本市との間で共通の目標を設置し、今まで以上に連携を取り、事業活動の企画・運営を行う必要がある。
	課題対策の具体化	魅力ある企画展の開催（美術館）
実績	成果	<p>◆黒井健（絵本原画の世界展） 「ごんぎつね」「ころわん」などで知られる絵本作家・黒井健の原画展覧会を開催。本人による講演会・サイン会の実施、関連グッズの販売も期間中実施し、大人から子どもまで好評を得た。</p> <p>◆画家とパレット～巨匠たちの創作のひみつ～ 日動美術財団が所属するピカソ・ユトリロなど著名な洋画家のパレットコレクションと作品及び郷土ゆかりの作家のパレットと作品を展示して好評を得た。</p> <p>◆福岡県立美術館移動美術館展 県立美術館が所蔵する作品や田川市美術館が所蔵する作品を「デザイン」をテーマに画や陶器、着物など多彩な作品展示を実施した。また、田川にゆかりのある松永真の有名なデザイン作品等を展示することで、市民の興味を得た。</p> <p>◆江上茂雄展 101歳の現役で90年間に渡り日常のまちを描き続けた江上茂雄の水彩画やクレヨン画等を、福岡県立美術館、大牟田市立三池カルタ・歴史資料館と共同開催して好評であった。</p>
	課題	<p>◆画家とパレット～巨匠たちの創作のひみつ～ 観覧した方には、素晴らしいと大好評であったが、観覧料700円と高額であったためか、入館者数は伸びなかった。市民に対して世界的に有名な本物の素晴らしさを伝えるチャンスであったが、観覧者を伸ばすための、ターゲットにあった戦略が必要である。</p> <p>◆デザインをテーマにした企画は好評であったが、ポスターが子ども向けの企画ととらえられたため、高齢者など幅広く楽しめる内容であったが入館者数は伸びなかった。ポスターによるイメージの定着の影響が大きいため今後も十分な検討が必要である。</p>
	課題対策の具体化	市民の多様なニーズに応える（美術館）
実績	成果	◆アートホールを利用したコンサートの開催が主催者・参加者ともに好評を得ている。
	課題	◆コンサートに来館した音楽を楽しむ方にも、是非、美術展示を観覧いただきたいところであるが、アートホールが展示の受付ホールでありかつ全てのギャラリー展示室の出入り口であるため、困難である。閉館後のコンサート開催しかできないため、コンサートの来館者が美術展示の観覧につながるような仕組みを検討したい。
	課題対策の具体化	教育普及事業の推進（美術館）

実績	成果	<p>◆出前授業 小学校に学芸員等が出向き、児童に着物のデザイン画描きにチャレンジさせた。</p> <p>◆出張ワークショップ 子育て支援センターに学芸員等が出向き、「ひんやりトロトロえのぐとペタペタスタンプ」「みずたまぼちよん」「よるのまどをつくろう」など幼児や親子が体験しながら美術に親しむ取組が大変好評を得た。</p> <p>◆ワークショップ 夏休み、冬休み、各種企画展に併せた様々なワークショップを美術館で開催し、子どもや親子連れで美術に楽しむ機会を実施した。</p> <p>◆夜の美術館 昨年まで固定参加者には支持されているものの参加者は減少傾向にあった。全4回のうち2回を新聞記者に講師を依頼するなど志向を変え、積極的な参加の声掛けをしたところ、2倍の参加者となった。</p>
	課題	◆美術館外での出前授業や出張ワークショップにより、美術館来館につながる企画展等の積極的なPRに努める必要がある。
課題対策の具体化		学校教育、他館との連携（美術館）
実績	成果	<p>◆出前授業を行い、福岡県立美術館移動美術館展へのバスを提供し、児童を招き、学芸員の解説を実施した。</p> <p>◆筑豊地区美術館ネットワーク（田川市美術館、嘉麻市織田廣喜美術館、直方谷尾美術館）の共同企画として、「エコール・ド・チクホウ」を開催した。</p> <p>◆毎週土曜日の西日本新聞筑豊版に「情熱の地場」という筑豊地域在住の作家を学芸員が取材、記事掲載し、筑豊地域の作家の紹介の場として連載している。</p> <p>◆図書館と連携し、図書館のイベントに来館した児童や親子などを美術館企画展の鑑賞へと誘導し、学芸員による解説などを行った。</p>
	課題	◆現在のところ石炭・歴史博物館との連携事業などはないため、お互いの入館者増を図るため、連携協力する体制の検討などが必要と思われる。
総合評価		<p>【B 概ね良好な成果が得られた】</p> <p>◆田川文化センター・田川青少年文化ホール 文化事業については、田川文化連盟等の市民団体の協力連携によって多くの市民が参加する事業が実施できた。今後更なる市民文化活動の充実を目指し、事業の充実を図る必要がある。</p> <p>◆美術館 様々な企画展やコレクション展、ワークショップ、夜の美術館など、これまでと違った趣向を取り入れることができ、少しずつ、新たな美術館来館者にもつながっていると思うため、今後もより力を入れていきたい。 「英展」については、開館当初から美術館の目玉事業であるため、力を入れているが、新たな来館者や注目度も見られなかった。今後は、「英展」の事業目的を今一度振り返り、企画内容、PRや告知の戦略等について十分な検討が必要と思われる。</p>

○ 重点施策

いつでも、どこでも学べる生涯学習環境をつくる

主要課題		図書館機能の充実整備に努める
課題対策の具体化		子どもに対する読書対策（図書館）
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもの読書への関心を喚起するため <ul style="list-style-type: none"> ・隔週金・毎週土曜日 ボランティア等による絵本の読み聞かせ ・ 4月27日 子ども読書の日イベント開催（参加者75名） ・ 10月26日 田川市読書まつり開催（参加者100名） ・夏休み 読書マラソン（参加者502名） ◆子どもの読書活動を推進するためのボランティアの育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2月17日、2月24日 ボランティア養成講座開催（受講者41名） ◆絵本を媒体として赤ちゃんと保護者のコミュニケーションを推進する事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート事業 毎月7ヶ月健診時9月より順次4ヶ月健診時に開催へ移行（配布者464人）
	課題	◆各種の行事を通じて、就学前及び児童生徒の読書意欲を喚起している。改修工事のためクリスマス会は取り止めとなったが、行事参加者は前年並みか増加となっている。今後ともボランティア団体とのより一層の協働及び広報等で周知に努め、さらなる参加者の増加につなげたい。
課題対策の具体化		市立図書館と小・中学校図書館との連携（図書館）
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校図書館協議会との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ 11月30日 こども童話発表会の開催（来場者150名） ・ 1月15日～26日 読書感想画展開催（応募者132名 優秀者51名） ・ 読書感想画優秀作品のHP掲載 ・ 2月13日 読書感想文コンクール優秀者文集配布（応募者94名 優秀者36名） ◆図書館見学の受入（4校 217名） ◆図書館職場体験学習等受入（9校 13名）
	課題	◆学校図書館協議会との連携の一環として読書感想画のHP掲載を実施している。今後とも一層の連携拡充を進める必要がある。
課題対策の具体化		図書の資料収集の充実や必要な資料の提供等（図書館）
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆貸出し数 170,935件 ◆受入図書資料 7,080冊 ◆リクエスト件数 4,469件 ◆他図書館との相互貸借 295冊 ◆参考業務受付件数 1,967件 ◆レコードコンサートの開催 月1回 延べ209人参加 ◆郷土史市民公開講座（田川郷土研究会と協働）の開催 年5回 延べ179人参加
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆図書館改修に伴う臨時休館（11月・12月）により貸出数は減少した。 ◆職員のスキルアップにより、高度で質の高い情報の提供に努める必要がある。

課題対策の 具体化		利用者に配慮した施設の整備（図書館）
実績	成果	◆「田川市立図書館改善基本計画」のもと、視聴覚室（旧永末文庫）がつくられ、学習室を区切りパソコン使用やグループ学習ができるスペースがつけられた。
	課題	◆入札の不調によりエレベーターの設置工事が平成26年度に繰越されたため、2階を有効に活用できていない部分がある。また、特集コーナーの設置など配架を含めたソフトの改善が不十分である。
課題対策の 具体化		自動車文庫の積極的運営（図書館）
実績	成果	◆自動車文庫貸出し冊数 38,514件 ・一般市民を対象にした停留所（31箇所） ・学校・保育園・幼稚園や社会福祉施設等（41箇所）
	課題	◆自動車文庫における貸出し冊数は臨時休館に伴う代替貸出等により前年に比べ増加した。新規の停留所等の申請があった場合、日程に余裕がないため、受入れが困難になってきている。
総合評価		【B 概ね良好な成果が得られた】 ◆生涯学習の基地として、子どもの読書活動の推進の場として、利用者へのサービスを提供している。実績としては、貸出冊数が減となった。平成25年度に耐震及び館内の改修が行われ、このことにより、ハードの改善がなされたが（一部平成26年度実施）、特集コーナーの設置など配架を含めたソフトの改善も行っていきたい。なおレファレンス回答は職員のスキル向上により増加した。

○ 重点施策

歴史を受け継ぐ文化遺産を保護・活用する。

主要課題		「石炭の歴史」の発信と文化財保護に努める
課題対策の 具体化		博物館機能の充実（博物館）
実績	成果	◆山本作兵衛コレクションをはじめとする炭坑文化や、その背景となる筑豊炭田、旧産炭地等の調査・研究を進めるため、附属研究所を設置した。 ◆来館者に対して展示をわかりやすく説明するため、音声ガイド機を70台導入した。 ◆筑豊地域の資料館や県内各機関等と連携し、企画展等を実施した。特に、三池炭田、釧路炭田、筑豊炭田のコラボ企画展では、旧産炭地間の連携強化が図られ、相互に密接に関わる炭坑の調査、研究に弾みがついた。 ◆全国に博物館をPRするため、博物館オリジナル商品を製作・販売した。 ◆博物館の活動を広く市民などに知ってもらうため、館報や博物館だよりなどの出版物を作成した。 ◆新聞や雑誌などを通じて館の広報を行うとともに、各種イベント事業を実施し、博物館の利用促進を図った。

	課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆館内の床面や電気設備、展示室の壁等、施設の老朽化に伴う改修を行う必要がある。 ◆遺産登録により、炭坑の歴史が注目される今、田川地域を中心とする炭坑文化遺産等の周遊の基点となる機能が博物館に求められており、地域内の関連資料等の歴史や意義、見学の魅力等について来訪者が正しく理解できるような仕組みを構築する必要がある。 ◆外国人観光客向けに、石炭・歴史博物館及び展示資料を紹介する表示などを多言語化する必要がある。 ◆館内の展示について、正しく順路を設定する必要がある。また、展示について来館者が正しく理解するため、館内を案内するガイド（現行2名で対応）の養成が急務である。
	課題対策の具体化	教育普及活動の強化（博物館）
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆館長講座「炭坑の語り部」、「勾玉作り」、「石炭を燃やそう」など各種講座を実施し、多くの参加者があった。 ◆田川市石炭・歴史博物館開館30周年記念・世界記憶遺産登録原画特別公開『山本作兵衛墨画展』～炭坑記録画の源流～（平成25年4月27日～5月26日、来館者数7,573人）、田川市市制施行70周年記念、田川市石炭・歴史博物館開館30周年記念特別原画展『山本作兵衛コレクションと世界記憶遺産』（平成25年10月26日～11月24日、来館者数8,610人）、田川市石炭・歴史博物館開館30周年記念・特別企画展『たがたんが行く！たがわ記憶遺産』展（平成25年7月20日～9月1日、来館者数5,529人）などいずれも好評を得て、多くの来館者があった。 ◆炭坑の語り部講座や炭坑の語り部集の発行により、地域の炭坑文化を後世に伝える活動を行った。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校教育等と密接な連携を図り、若い世代の博物館の活用をさらに充実させる必要がある。 ◆子どもから大人までの幅広い年齢層が歴史や文化を楽しく学べる仕組みを実現する必要がある。
	課題対策の具体化	文化財の保護と活用（博物館）
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆山本作兵衛コレクションの世界記憶遺産登録を受け、炭坑の文化や歴史などに対する住民の関心が高まった。 ◆埋蔵文化財の開発に伴う事前審査、民俗芸能保持団体への助成金等を通じ、市内文化財の効果的な保存活用を図った。 ◆「遠賀川流域古墳同時公開」や筑豊文化財行政連絡協議会などを通じて、他市町村と連携した埋蔵文化財の保存活用に効果があった。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆石炭産業関連遺産の保存活用 ◆埋蔵文化財の効果的な保存活用 ◆指定文化財の効果的な保存活用
	課題対策の具体化	国史跡指定への推進（博物館）
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆伊田坑跡調査指導委員会を開催し、平成25年度、伊田坑跡の調査を実施した。 ◆発掘調査実施中に現地説明会を開催し、市民の関心を高めた。

	課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆旧三井田川鉱業所伊田坑(竪坑・斜坑)の開坑から閉山までの変遷を明らかにするよう文化庁から要求されている。 ◆史跡の保全のための史跡予定地及び周辺の開発行為抑制
課題対策の具体化		ユネスコ世界記憶遺産「山本作兵衛コレクション」の保存活用(博物館)
実績	成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆博物館が所蔵する「山本作兵衛コレクション」の保存・修復措置及びレプリカ、デジタルデータの作成等を3年計画(平成24年～26年度)で実施している。 ◆平成24年度に実施した「山本作兵衛コレクション全国産炭地キャラバン展」の記録集を作成した。 ◆世界記憶遺産保存等指導委員会からの意見聴取を行い、今後の山本作兵衛コレクションの保存方法を検討した。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆世界記憶遺産の活用等について、さらなる効果的な推進を図るため、また、山本作兵衛コレクションをとおして筑豊地域の炭坑文化を継承するため、附属研究所の更なる機能強化を図る必要がある。 ◆山本作兵衛コレクションの原資料は、和紙に比べて保存が非常に難しいとされる脆弱な西洋紙(酸性紙)が使用されているため、早急に博物館内の保存、展示環境の整備を行う必要がある。 ◆山本作兵衛コレクション原資料については、詳細な状態調査を実施した後、その結果に基づく総合的な保存管理計画を策定する必要がある。
総合評価		<p>【B 概ね良好な成果が得られた】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆山本作兵衛コレクションについては、ユネスコの一般指針等に基づき、当該記憶遺産を未来永劫保存・伝承する必要がある、保存管理のための適切な環境整備が求められる。 ◆年2回の原画展を開催したことにより、山本作兵衛コレクションの認知度が高められた。 ◆筑豊地域の資料館や記念館、また炭坑遺産との連携を図って、産業遺産の活用を充実してほしい。 ◆伊田坑跡は田川市にとって重要な遺跡であるので、国指定史跡をぜひ推進してほしい。

(資料1)

教育委員会会議議案一覧

議案番号	件名	議決日
第 2 号	学校適正規模について	継続審議
第 6 号	平成25年度教育施策方針について	H25. 5. 9
第 7 号	田川市就学指導委員会委員の委嘱について	〃
第 8 号	田川市社会教育委員の委嘱について	〃
第 9 号	田川市立中学校設置条例の一部改正について	〃
第10号	平成25年度教育費（6月補正）予算要求について	H25. 6. 10
第11号	平成25年度田川市立学校学校評議員の委嘱について	〃
第12号	猪位金校区学校統合委員会委員の委嘱について	〃
第13号	田川市図書館協議会委員の委嘱（交代）について	〃
第14号	田川市美術館協議会委員の任命（交代）について	〃
第15号	田川市石炭・歴史博物館等運営協議会委員の委嘱（交代）について	〃
第16号	猪位金校区学校統合委員会設置要綱の一部改正について	〃
第17号	平成26年春の叙勲候補者の推薦について	〃
第18号	平成24年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書について	H25. 7. 9
第19号	田川市文化財専門委員会委員の委嘱（交代）について	〃
第20号	平成25年度教育費（9月補正）予算要求について	H25. 8. 12
第21号	猪位金校区学校統合委員会設置要綱の一部改正について	〃
第 2 号	学校適正規模について	継続審議
第22号	平成25年度田川市教育功労者の選考について	H25. 10. 7
第23号	平成25年度教育費（12月補正）予算要求について	H25. 11. 6
第24号	田川市猪位金小中一貫校教育振興基金条例の制定について	〃
第25号	田川市立幼稚園（新園）開園について	〃
第26号	平成26年度田川市立小・中学校県費負担教職員人事異動方針について	H25. 12. 12
第27号	平成26年秋の叙勲候補者の推薦について	〃
第28号	田川市立学校管理規則の一部改正について	〃
第 1 号	平成26年度教育費当初予算要求について	H26. 1. 10
第 2 号	平成26年度田川市立小・中学校県費負担教職員人事異動取扱要領について	〃

議案番号	件名	議決日
第 3号	学校適正規模について	継続審議
第 4号	田川市社会教育委員の定数及び任期に関する条例の一部改正について	H26. 1. 10
第 5号	一部事務組合立中学校の基本的事項にかかる検討結果報告書について	H26. 1. 29
第 6号	平成25年度教育費（3月補正）予算要求について	H26. 2. 10
第 7号	田川市立幼稚園設置条例の一部改正について	〃
第 8号	田川市立小学校設置条例及び田川市立中学校設置条例の一部改正について	〃
第 9号	田川市石炭・歴史博物館の組織機構について	H26. 3. 7
第10号	田川市教育委員会公印規則の一部改正について	H26. 3. 10
第12号	学校給食費（小学校分）の改定について	〃
第13号	田川市立図書館条例施行規則及び田川市立図書館利用規程の一部改正について	〃
第14号	田川市石炭・歴史博物館等運営協議会委員の委嘱（交代）について	〃

※ 議案番号は、毎年1月を基点としています。

教育委員会会議報告等一覧

【報 告】

報告番号	件 名	議決日
第1号	平成25年度教育委員会職員の任免異動について	H25.4.9
第2号	平成25年度田川市立小・中学校、校長・教頭の任免異動について	〃
第3号	田川市公民館運営審議会委員の委嘱(交代)について	H25.5.9

※ 「報告」とは、田川市事務委任及び臨時代理規則第3条ただし書の規定による報告をいいます。

【事務報告】

番号	件 名	議決日
1	幼稚園改築事業及び猪位金校区小中一貫校整備事業の進捗状況について	H25.4.9
2	平成25年度田川市立小・中学校教職員人事異動の総括について	〃
3	平成25年度教育委員学校訪問の実施について	〃
4	田川市立図書館改善基本計画(案)について	H25.5.9
5	世界記憶遺産「山本作兵衛コレクション」の状況調査について	H25.7.9
6	世界記憶遺産「山本作兵衛コレクション」の状況調査について	H25.8.12
7	猪位金校区小中一貫校の進捗状況について	H25.10.7
8	新園の名称について	〃
9	図書館耐震改修工事等に伴う長期休館について	H25.11.6
10	田川市立幼稚園(新園)開園について	〃
11	田川市立幼稚園園則の一部改正について	〃
12	田川市立学校に勤務する県費負担教職員の自家用車による公務出張に関する取扱要領の一部改正について	H25.12.12
13	田川市新園の名称について	〃
14	田川市立図書館耐震改修工事等の期間延長について	〃
15	田川市青少年問題協議会委員の任命について	〃

番号	件名	議決日
16	田川青少年文化ホールの耐震診断の結果について	H26. 1. 10
17	放課後児童クラブの受入学年拡大と学習支援について	〃
18	学校いじめ防止基本方針について	H26. 2. 10
19	田川市立幼稚園の入園申し込み状況について	〃
20	小中一貫校猪位金学園の教職員配置について	〃

※ 「事務報告」とは、教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務に関して行う報告をいいます。

教育委員研修会等参加状況

開催日	研修内容	主催	場所
H25. 4. 9	福岡県立川崎特別支援学校入学式	川崎特別支援学校	川崎町
H25. 4. 16	管内市町村教育委員会教育長会議	筑豊教育事務所	飯塚市
H25. 4. 19	福岡県市町村教育委員会委員長・教育長会議	福岡県教育委員会	福岡市
H25. 5. 8	福岡県市町村教育委員会女性教育委員研修会	県市町村教委女性教育委員研修会	福岡市
H25. 5. 15	管内市町村教育委員会教育長会議	筑豊教育事務所	飯塚市
	田川市郡租税教育推進協議会定時総会	田川市郡租税教育推進協議会	田川市
H25. 6. 13	管内市町村教育委員会教育長会議	筑豊教育事務所	飯塚市
H25. 6. 25	筑豊地区緑化推進委員会総会	筑豊地区緑化推進委員会	飯塚市
H25. 7. 3	管内市町村教育委員会教育長会議	筑豊教育事務所	飯塚市
H25. 7. 18	筑豊市町村教育委員会連絡協議会総会	筑豊市町村教育委員会連絡協議会	飯塚市
H25. 8. 19	福岡県市町村教育委員会連絡協議会教育長研修会	県市町村教委連絡協議会	久山町
H25. 8. 22	九州地区市町村教育委員研修大会	九州地区市町村教育委員会連絡協議会	鹿児島市
H25. 8. 23			
H25. 8. 29	第2回福岡県市町村教育委員会連絡協議会教育長部会役員会	県市町村教委連絡協議会	福岡市
H25. 9. 4	筑豊市町村教育委員会教育長協議会研修会	筑豊市町村教育委員会連絡協議会	飯塚市
H25. 9. 6	福岡県社会教育研究大会	福岡県教育委員会	篠栗町
H25. 9. 25	管内市町村教育委員会教育長会議	筑豊教育事務所	飯塚市
H25. 11. 20	筑豊地区市町村社会教育委員研修会	筑豊教育事務所	嘉麻市
H25. 11. 22	管内市町村教育委員会教育長会議	筑豊教育事務所	桂川町
H25. 12. 5			飯塚市
H25. 12. 20	福岡県市町村教育委員会連絡協議会教育長部会役員会	県市町村教委連絡協議会	福岡市
H26. 1. 21	管内市町村教育委員会教育長会議	筑豊教育事務所	飯塚市
H26. 2. 14			
H26. 3. 20			

教育委員学校訪問日程

【定例学校訪問】

(1) 実施日：平成25年5月13日（月）

園・学校名	内 容
後藤寺幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・園内巡視、授業参観 ・園の経営、園児の状況、新園準備等の説明と懇談・指導助言 ・昼食の参観

(2) 実施日：平成25年5月14日（火）

園・学校名	内 容
伊田幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・園内巡視、授業参観 ・園の経営、園児の状況、新園準備等の説明と懇談・指導助言 ・昼食の参観
大浦小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・校内巡視、授業参観（5時限目） ・学校経営、生徒指導状況説明と懇談、指導助言

(3) 実施日：平成25年5月16日（木）

学 校 名	内 容
金川小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・校内巡視、授業参観（2時限目） ・学校経営、児童指導状況説明と懇談・指導助言 ・給食試食と参観
弓削田中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・校内巡視、授業参観（5時限目） ・学校経営、生徒指導状況説明と懇談、指導助言

(4) 実施日：平成25年5月17日（金）

学 校 名	内 容
後藤寺小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・校内巡視、授業参観（2時限目） ・学校経営、児童指導状況説明と懇談・指導助言 ・給食試食と参観
金川中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・校内巡視、授業参観（5時限目） ・学校経営、生徒指導状況説明と懇談、指導助言

【学校運営型学校訪問】

訪問日	学校名	内 容
平成25年6月21日（金）	弓削田小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・筑豊教育事務所指導主事による授業参観 ・指導方法、内容等の改善協議会 ・学力向上方策等の学校運営の説明、協議
平成25年6月28日（金）	猪位金中学校	
平成25年9月27日（金）	猪位金小学校	

(資料5)

田川市教育委員会委員名簿

平成26年3月31日現在

区分	(ふりがな) 氏名	保護者	性別	現在の任期 (委員長職等の任期)	過去の在任期間 (委員長職等の任期)
委員 (委員長)	かん ぎき よう こ子 神 崎 陽 子	○	女	H24. 10. 1～H28. 9. 30 (H25. 10. 11～H26. 10. 10)	H16. 10. 1～H24. 9. 30
委員 (委員長職務代理)	もう り しんいちろう 毛 利 眞一郎		男	H23. 12. 25～H27. 12. 24 (H25. 10. 11～H26. 10. 10)	H22. 1. 1～H23. 12. 24
委員	きみ かど よし のり 公 門 義 尊		男	H24. 10. 1～H28. 9. 30	—
委員	ほし の ゆかり 星 野 ゆかり	○	女	H25. 10. 11～H29. 10. 10	—
委員 (教育長)	お がき ゆう ぞう 三 尾 垣 有 三		男	H22. 10. 8～H26. 10. 7 (H22. 10. 8～H26. 10. 7)	H21. 7. 1～H22. 10. 7 (H21. 7. 1～H22. 10. 7)